

第6回講座

小学校から中学校・高等学校 への学びの接続

明海大学 教授 坂本純一
教授 石鍋 浩

本講座のねらい

「学校段階間の接続」が重要とされています。小学校から中学校・高等学校における指導へ円滑に接続できるようにするための指導方法や言語活動等について理解することをねらいとします。

本講座の流れ

- ▶ 学習指導要領における「学校段階間の接続」の重要性
- ▶ 小・中の接続
- ▶ 中・高の接続
- ▶ 小・中・高の接続の意義と今後への期待

学習指導要領における「学校段階間の接続」の重要性

小・中・高に共通する「見方・考え方」

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う**目的や場面、状況等**に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

学習指導要領における「学校段階間の接続」の重要性 「目標」の高度化

小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、</p> <p>外国語による<u>聞くこと</u>，<u>話すこと</u>の言語活動を通して、</p> <p>コミュニケーションを図る<u>素地</u>となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、</p> <p>外国語による<u>聞くこと</u>，<u>読むこと</u>，<u>話すこと</u>，<u>書くこと</u>の言語活動を通して、</p> <p>コミュニケーションを図る<u>基礎</u>となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、</p> <p>外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して、</p> <p><u>簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする</u>コミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、</p> <p>外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動<u>及びこれらを結び付けた統合的な言語活動</u>を通して、</p> <p>情報や考えなどを<u>的確に</u>理解したり<u>適切に</u>表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>

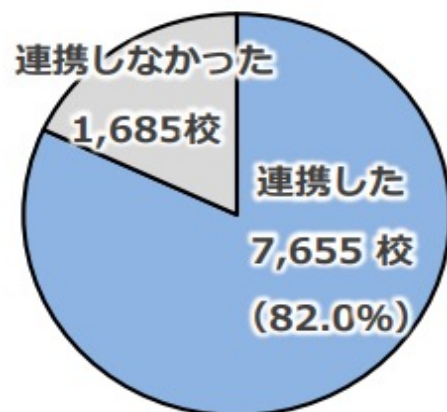
小中連携の重要性

～令和元年度「英語教育実施状況調査」(文部科学省)～

小学校・中学校・高等学校の連携に関する状況

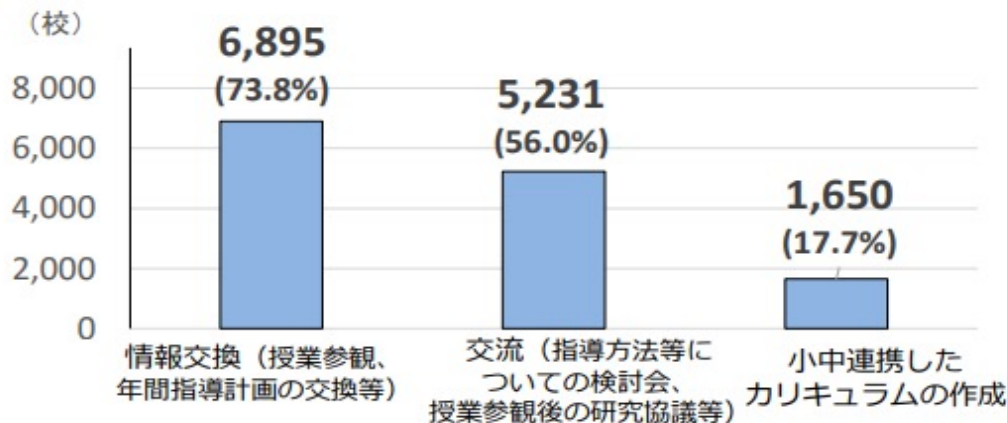
○小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合は82.0%であり、未だに全学校には至っていない。地域によって、大きな差があることが課題。

小学校との連携に取り組んでいる中学校



※全体数は、調査対象の中学校9,340校。

【中学校と小学校との連携の形態】



※令和元年度より、全学校数を分母として割合を計算。(平成30年度までは、小中連携した(する)学校数を分母として割合を計算。)

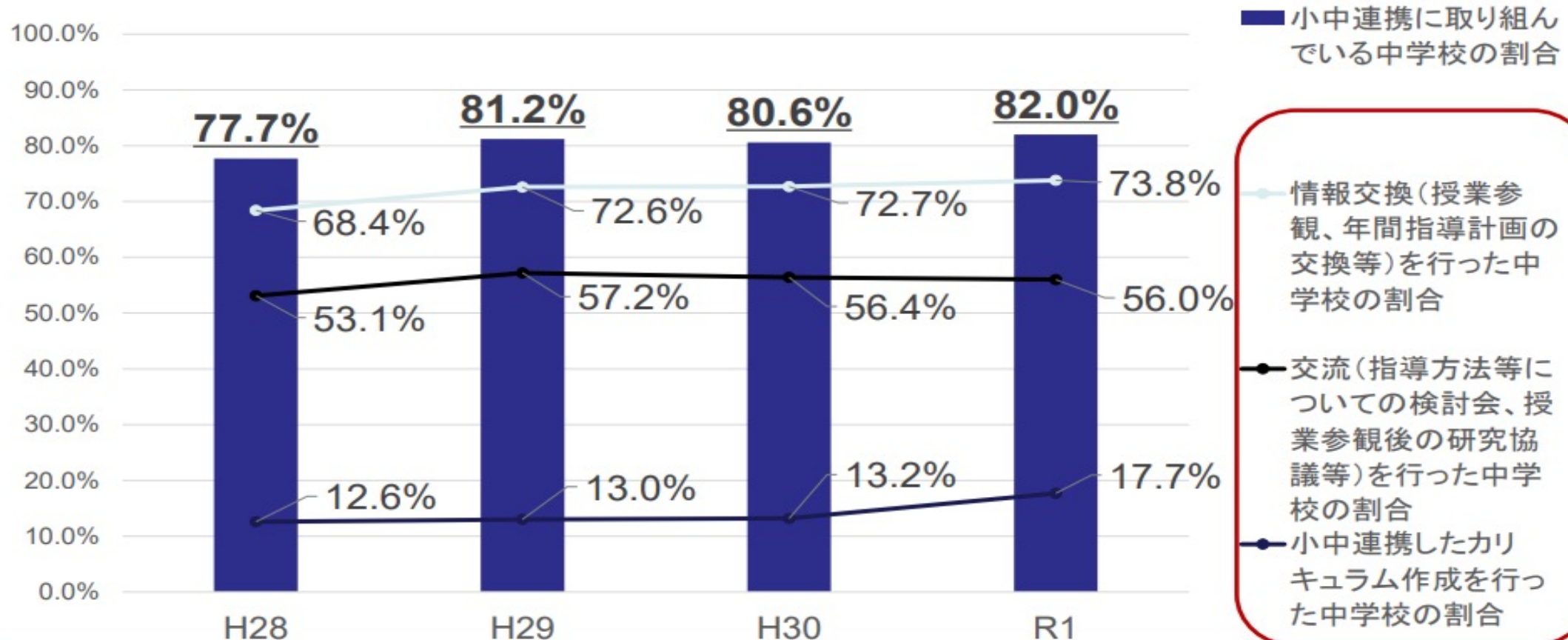
生徒の英語力向上に向けた分析

授業改善に関する各項目(生徒の言語活動、教師の英語使用、ALTやICTの活用、小中連携等)の実施状況が高い都道府県・指定都市ほど、生徒の英語力に関する指標が高い傾向が見られる。

小学校・中学校の連携に関する状況(R1「英語教育実施状況調査」)

○小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合は82.0%であり、未だに全学校には至っていない。地域によって、大きな差があることが課題。

小学校との連携に取り組んでいる中学校



※英語教育実施状況調査(平成28, 29, 30, 令和元年度)の結果を元に作成。
※いずれの指標についても、全中学校数を分母として割合を計算。

学習指導要領 目標 ～言語活動を通して～

小学校外国語活動 (3・4年)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小学校外国語 (5・6年)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校における言語活動を見てみましょう！

- ▶ 主に「思考力・判断力・表現力等」を育成するための指導例

～やりとりを重視した授業、ALTを活用した実践～

- ▶ 北九州市立浅川中学校 主幹教諭 波多野皓一 先生

- ▶ <https://www.youtube.com/watch?v=V54VVRpnnKw>

- ▶ 1 帯活動①：プレゼンテーション
- ▶ 2 帯活動②：1 minute chat



「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
話すこと [発表]	(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。	(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。	(ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。
	(イ) 自分の好き嫌い、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。	(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。	(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。
	(ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。	(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。	(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。

「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
話すこと [やり取り]	(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。	(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。	(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。
	(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。	(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。	(イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。
	(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。	(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。	(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。

中・高の接続

なぜ中・高の接続を意識しなければならないのか

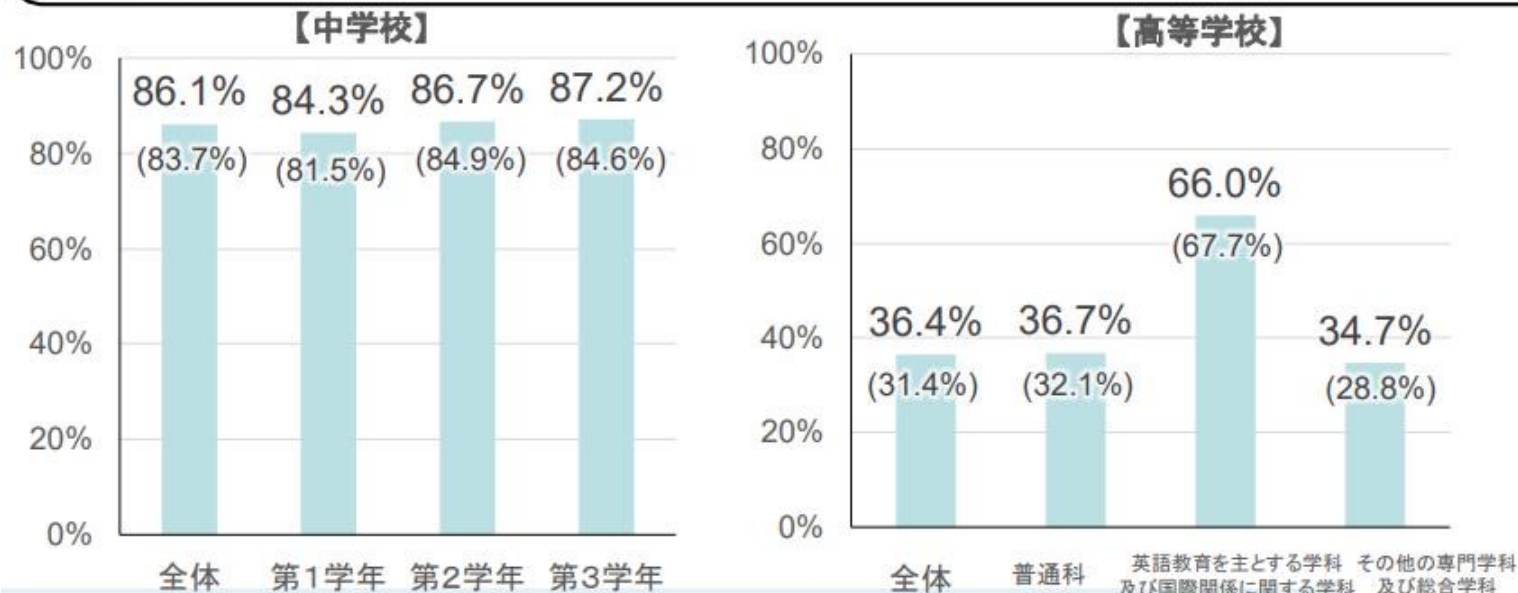
- ・ 中学校での指導の成果が高校で十分に生かされていない問題
- ・ 中学校と高等学校でそれぞれどのような指導と評価が行われているかについてお互いに情報不足で、中・高の連携が不十分である問題

中・高の接続

令和元年度「英語教育実施状況調査」(文部科学省)

パフォーマンステストの実施状況(中学校・高等学校)

- 「話すこと」「書くこと」のパフォーマンステストを両方とも実施している割合は、中学校では8割を超えている。
- 高等学校では、昨年に比べて全体では5.1ポイント上昇したものの、「話すこと」「書くこと」の両方の評価を行っている割合は、いまだに4割に満たない。
- パフォーマンステストは、4技能のバランスのとれた育成、特に発信力の強化を図る上で不可欠であり、高等学校での実施状況が低いことに課題がある。



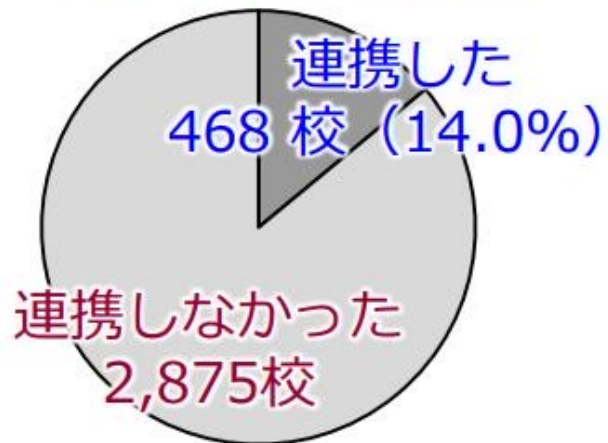
※ () 内は、昨年度の数値。

中高の接続

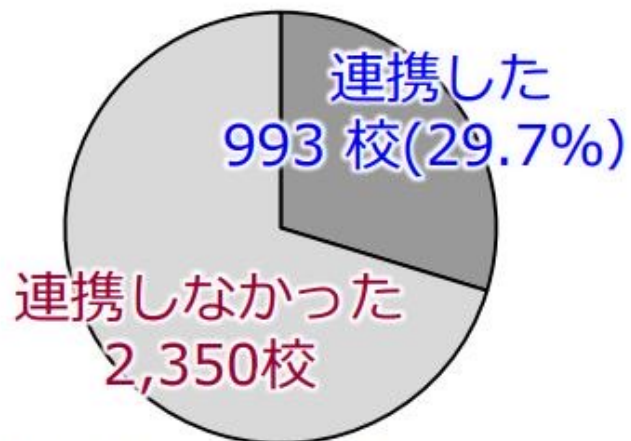
令和元年度「英語教育実施状況調査」(文部科学省)

小・中学校との連携に取り組んでいる高等学校

【小学校との連携】

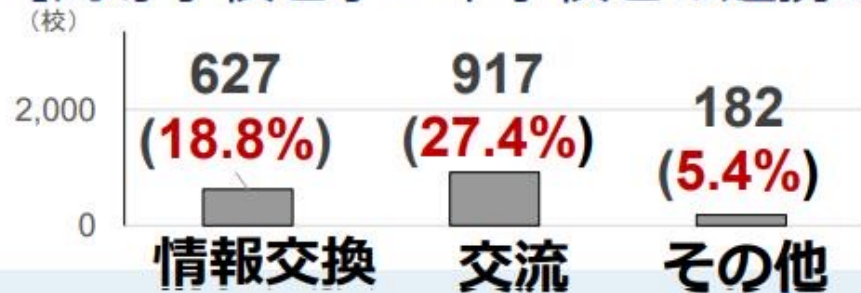


【中学校との連携】



※全体数は、調査対象の高等学校3,343校

【高等学校と小・中学校との連携の形態】



中・高の接続

「支援」を段階的に減らしていくことで自立した学習者に育てる。

例：「聞くこと」の目標

中学校 外国語

はっきりと話されれば、必要な情報を聞き取ることができるようにする。

高等学校 外国語 英語コミュニケーションⅠ

多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

高等学校 外国語 英語コミュニケーションⅡ

一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

高等学校 外国語 英語コミュニケーションⅢ

支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

中・高の接続

高等学校での授業の様子（1）

文部科学省作成授業動画

「生徒の英語による発話を引き出す教師と生徒とのやり取り」

東京都立本所高等学校 中鉢 健治 先生

<https://www.youtube.com/watch?v=8L2i4fLyEh0>

- ・ スモールトークの場面
- ・ 自己の考えを理由を添えて言わせる場面

中・高の接続

高等学校での授業の様子（2）

文部科学省作成授業動画

「ディベートの段階的指導」

福井県立福井商業高等学校国際商業科（2年生）

竹内 康敏 先生 Peter Martin Clynes 先生(ALT)

<https://www.youtube.com/watch?v=eX-BSiChMUM>

- ・ 即興で話して伝え合う場面

小・中・高の接続の意義と今後への期待

子供に小・中・高でスムーズに接続する学びを保障することによって、生涯にわたって自ら外国語を学び、実際にコミュニケーションで使おうとする動機付けに結びつける。



近い将来高校生になることを視野に入れながら小学校の授業を考えることが期待されます。

小学校での役割について

▶まとめとして

周りの人と話し合いです。

- ▶ 1 今までの先生方の実践を振り返って
ください。
- ▶ 2 今後、どのようなことに力を入れて
いきたいですか？

